

会 議 記 録

高松市附属機関等の会議の公開及び委員の公募に関する指針の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	令和4年度 第2回高松市文化芸術振興審議会
開催日時	令和5年2月21日(火) 19時00分～21時00分
開催場所	高松市役所 11階 114会議室
議 題	(1) 高松市文化芸術振興計画に掲げる事業の取組状況について (2) 次期高松市文化芸術振興計画の策定に向けて (3) 次期高松市文化芸術振興計画に係るアンケート調査案について (4) その他、今後のスケジュールなど
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
出席委員	青山委員、甘利委員、鹿庭委員、北岡委員、島田委員（副会長）、多田委員、田中委員、橋本委員（会長）、三木委員、水嶋委員、若井委員 計11人 (欠席4人 金川委員、鎌田委員、木ノ下委員、林委員)
傍 聴 者	0人 (傍聴席4人程度を確保)
担当課及び連絡先	高松市文化芸術振興課 087-839-2636

審議経過及び審議結果
<p>会議を開会し、次の議題について協議し、下記の結果となった。 審議会の公開・非公開について審議がなされ、公開の決議がなされた。</p> <p>(1) 高松市文化芸術振興計画に掲げる事業の取組状況について 令和元年5月に策定にされた「第2期高松市文化芸術振興計画」に掲げる事業の取組状況について事務局から説明し、次のとおり意見があった。</p> <p><国内外の姉妹都市等との交流について> (委員) ・決算見込額が予算額の3分の1となっているが、この数字について説明して欲しい。 (事務局) ・事業自体を縮小しているものではなく、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、通常どおりの交流事業が実施できていないため、予算額と決算見込額に差が生じている。</p> <p><新型コロナウイルス感染症について> (委員) ・文化庁でウィズコロナとポストコロナの政策が掲げられているが、各事業でメリハリをつけていくのか、それとも政策的に決定するのか教えて欲しい。</p>

(事務局)

・政策的な面では、ウィズコロナよりもポストコロナについて考えながら進めるべきである。政策的に決定するものがある一方、来年度は次期計画の策定段階となるため、予算の中である程度メリハリをつけていきたい。

<瀬戸内国際芸術祭における情報発信について>

(委員)

・決算見込額が予算額に比べて約140万円マイナスとなっているが、この数字について説明して欲しい。

(事務局)

・従来実施していた懸垂幕の掲出を見直し、市庁舎にラッピングシールを貼る手法に変更した。また、既存のサイトを活用するなど工夫することで経費の削減を図った。

<やしまーるについて>

(委員)

・施設利用に制限があるという話を聞いたことがあるが、行政側はそのことを把握しているのか。している場合は、今後の方針として何か考えていることはあるか。

(事務局)

・施設を利用したいが、どうしたらよいかという意見は伺っている。御意見は施設を所管している観光交流課観光エリア振興室にも共有させていただく。

(※観光交流課観光エリア振興室確認)

・オープン当初は、施設を管理する指定管理者が、貸出しスペースにおいて、施設オープンに係るイベントを実施しており、一般の方が利用できない期間もあったが、現在は、それらは終了し、通常に貸し出しの受付を行っている。

(委員)

・屋島に関しては複数の課が関係しているが、情報発信について、連携はされているのか。

(事務局)

・引き続き、連携しながら進めていく。

<文化奨励賞受賞者記念披露事業について>

(委員)

・受賞者によって実施時期や会場が様々であるため、アートステーションでの発表は難しいのか。また、今後は顕彰部門の受賞者にも発表の機会を提供するのか。

(事務局)

・アートステーションの定員の問題もあるため、今後、他の市有施設での開催も検討したい。また、顕彰部門の受賞者にも発表の機会を提供したいと考えており、令和6年度の実現を目指して進めていきたい。

<アーティスト・イン・レジデンスについて>

(委員)

・制作場所をアーティストが探さないといけないという条件はかなり厳しいと思う。一緒に場所探し等からしないと、作家が集まらなかったり実施できなかったりすることになると思うので、ぜひ改善をお願いしたい。

(事務局)

・場所を持たない代わりに地域交流型としており、行政が空き店舗や空き施設を紹介したり、キーマンとなる人を紹介したりしながら進めている。今後、アーティストの意見を聞いたり、AIR_Jの情報を取り入れたりしながら、改善したい。

(委員)

・近年ヨーロッパでは、滞在先での交流や作品制作等に対する助成が多いので、今は海外からのレジデンスの受け入れに適した時期だと思う。地域活性や観光情報発信になるため、これからの時代では、予算の中のレジデンスの割合がもっと増えても良いと考える。

(事務局)

・海外からの受入れ体制は十分ではないが、当初の想定よりも広く来ていただいている。本市のアーティスト・イン・レジデンスは、地域交流を第一に考えている。今のやり方を変えるというよりも、ブラッシュアップできれば良いと考えている。

(委員)

・利用可能場所のリストを作成するなど、選択肢を増やせると良い。

(事務局)

・過去の実施場所や、協力いただける施設を事前に提示することはできると考える。

<情報発信について>

(委員)

・コロナ禍等を経て、人の心や生活に影響する文化の役割が見直されており、一つの方向性を高松から発信できるとよい。また、広報の方法が細分化されてメインのメディアがなくなりつつあるので、新しい視点での情報戦略が必要だと思う。

(2) 次期高松市文化芸術振興計画の策定に向けて

高松市文化芸術振興計画の期間が令和5年度までとなっているため、次期計画を策定するに当たっての方向性を事務局から説明し、次のとおり意見があった。

<アーティスト・イン・レジデンスについて>

(委員)

・アーティストへのナビゲート体制が必要だと考える。また、海外への発信に繋がるような、インクルーシブの視点も含めたプラットフォームが重要であるため、次期計画の策定に向けて、話し合いができれば良い。

(事務局)

・現在、高松版プラットフォームの構築を進めており、その中で最も重要なことは中間支援だと考えている。本市に専門的な人材を配置し、高松版地域アーツカウンシルの体制を整えた上で、アーティストの意向を十分に理解し情報発信することが大事である。高松版プラットフォームにおいては、様々な化学反応を期待しており、審議会での意見等を次期計画にも反映したい。

<計画の表現について>

(委員)

・「4つの方針」の表現方法が漠然として分かりにくいので、分かりやすい文言に変えても良いのではないか。

(事務局)

・前回の計画策定時、堅い言葉を並べるよりもひらがなで分かりやすい言葉が良いということと、「4つの方針」の体系下にある「10の基本的施策」の内容を見ると概ね理解できるということから、現在の表現方法となっている。事務局では4つの方針と10の基本的施策は踏襲したいと考えているが、審議会での意見をもとに検討したい。

<SDGsの取り組みについて>

(委員)

・SDGsの17の目標には、直接的に文化芸術は入っていないが、間接的に繋がることはたくさんあると思うので、次期計画の中でも検討していくべきだと思う。

<総括>

(会長)

・この5年間想定していなかったコロナ禍等の大きな変化があった。基本的な枠組みは現行のものとしながら、未来に向けた文化芸術活動の視点を発揮していただいて、多くの議論ができればよい。

・高松市文化芸術ホールのリニューアルや部活動の地域移行、人材育成など様々な要素が発生するが、何よりも、私たちが文化芸術をどうしたいのか大いに議論していきたい。

(3) 次期高松市文化芸術振興計画に係るアンケート調査案について

次期計画を策定するに当たって、現計画策定前に実施したアンケートに、質問項目を追加して調査を実施する予定であり、その案について事務局から説明し、次のとおり意見があった。なお、内容については、意見を反映させた質問案を事務局で再度作成し、決定することとなった。

(委員)

・文化芸術活動をした方に対する質問「活動をはじめるきっかけとなった理由」に対する回答に「ワークショップに参加して」という項目があれば良いと思う。また、オルタナティブスペースの使い方に関する設問があれば良いと思う。

(事務局)

・オルタナティブスペース自体を知っている方が、使い方に困っているという状況を想定していなかったので、今後検討する。

(委員)

・分野の項目分けが現状に合っていないものも多く、分類方法を変えたり、自由記載にしたりするなど、検討が必要だと思う。

(事務局)

・前回の項目を踏襲した形になっているため、今後は現状に合った項目を検討する。

(委員)

・今までの踏襲ではなくて、今の時代に合った表現や内容が良いと思う。また、

「高松市の文化芸術を市民が楽しんでくれているか」などの質問項目や、「どういうイベントがあれば良いか」というような自由記載もあれば良いと思う。

(事務局)

・実情に合ったアンケートにしたいと考えている。自由記載もあるが、今は総括のところにあるため、再度検討する。

(委員)

・アーツカウンシルという言葉が一般的には分かりづらく、中間支援が必要だということを記載すると分かりやすい。むしろ文化芸術の中間支援とは何なのか、どういう支援をしてくれるのかなどの説明がある方が良い。

(事務局)

・情報共有や助成金など、アーティストや団体の方と伴走しながら支援ができるような取り組みができるよう工夫したいと考えており、表現方法についても検討する。

(委員)

・アンケートについての意見はいつまで受け付けるのか。

(事務局)

・本年度中に、事務局まで御意見をいただきたい。

以 上